

「人生の最終段階における心肺蘇生を望まない人々の意思尊重に関する
開業医および高齢者施設等を対象としたパイロット調査」
説明書

このたび、「開業医および高齢者施設等を対象とした、人生の最終段階において心肺蘇生を望まない人々の意思尊重に関する現状と支援方法の構築」を目的に、質問紙調査を実施することとなりました。

本学では、医学系研究に協力して下さる方々（以下研究対象者）の利益と安全を守り、安心して研究に参加していただくように心がけております。こちらに記載されている調査研究については、皆様から同意取得のもとに実施をさせていただいております。なお、本調査への回答を拒否されても一切の不利益はないことを明記させていただきます。ご回答は**完全匿名**で行われ、医院や施設名および個人名が特定されることはございません。

また、回答率の向上を目的に、数か月後に 1 回だけ全く同じ調査依頼をさせて頂くことをご容赦ください（すでに回答された方は、ご放念ください）。本調査にご協力いただける場合は、別紙の回答用ウェブサイトへアクセスしてご回答をお願い致します。

最期までその方々の意志を尊重する社会の構築にむけて、皆様のお力添えを何卒お願い申し上げます。

2026年2月

熊本大学病院緩和ケアセンター長・教授 吉武 淳

受付番号	(倫理)・先進・ゲノム) 第 3397号
研究の目的	本研究の目的は、人生の最終段階における「心停止時に心肺蘇生術を実施しないこと（DNAR）」の意思表示が医学的に、そして社会的に有効活用されているのかを開業医および高齢者施設等において調査し、本人の意思を尊重した終末期医療の実現可能性とその課題を明らかにすることです。
研究の背景	人生の最終段階での意思決定支援は、介護・看護・相談業務など多職種が関わる重要なテーマです。厚生労働省が行った調査では、「あなたが病気で治る見込みがなく、およそ1年以内に徐々にあるいは急に死に至ると考えたとき、心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置（心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと）を「望まない」と回答した一般国民は53.8%」と報告されています（参照：人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査 報告書 令和5年12月）。しかし、本人が心肺蘇生術を望まないという意思表示がある場合でも、急変時の判断、家族対応、記録や申し送りの仕組み、さらには消防との連携など、多くの課題を抱えている可能性があります。
本調査の概略	この説明書をお読みになり参加に同意いただける場合は、別紙の回答用ウェブサイトにてご回答をお願いいたします。回答時間は約10～15分です。 なお、研究計画書や研究の方法に関する資料を入手・閲覧して、研究内容を詳しくお知りになりたい場合は、末尾の連絡先にお問い合わせください。他の調査対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲でご提供させていただきます。

研究の概略

1. 研究方法

熊本県内の開業医および高齢者施設の職員等を対象とし、質問紙調査を行います。調査結果をもとに、以下の点を中心に解析を行います。

- ✓ 蘇生不要の希望が尊重されない要因
- ✓ 蘇生不要の希望が尊重されるための支援方法の策定

2. 研究期間

大学院生命科学研究部長（病院長）承認日から 2028年3月31日まで

3. 調査対象者として選定された理由

病院だけでなく自宅や施設で看取りを行う可能性がある場所のスタッフを選定しました。

研究参加によって得られる利益

本研究調査後に回答者ご本人への結果のフィードバックは予定しておりません。しかし、人生の最終段階における意思尊重が向上し、皆様の希望実現に寄与することが期待されます。

研究によって生じる負担・危険性及び合併症

本調査回答のため10～15分間の時間を要し、時間的に拘束されます。人生の最終段階や終末期医療に関する質問を含むため、精神的苦痛が生じる可能性があります。

代替手段とその期待しうる効果、危険性及び合併症

質問紙調査ではなく、対面でのインタビュー調査があります。インタビュー調査では詳細な情報収集が可能となる反面、調査に多大な時間と労力が必要となります。また、インタビュー対象者に係る精神的および時間的負荷が増える可能性があります。本研究において、インタビュー調査は行いません。

この研究に参加しない場合

本調査への参加の判断は調査対象者の自由意思です。そのため、参加の有無により利益または不利益になるようなことはありません。

その他

1. 研究対象者に生じる経済的負担と謝礼

研究対象者に対し、新たな経済的負担を求めることはありません。また、研究対象者に対し謝礼を支払う予定はありません。

2. 同意の撤回について

本研究では、調査回答者の個人を特定できる情報を収集しません。よって、回答後には回答者を特定できないため、調査回答後の同意撤回はできません。

3. 研究に関する情報公開の方法

研究対象者等から、本研究に関する相談等があった場合は、研究責任者が誠意を持って対応します。研究対象者等が研究結果を知りたいと望んだ場合は、他の調査対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲でご提供させていただきます。本研究調査後に回答者ご本人への結果のフィードバックは予定していません。

4. 個人情報等の取扱いについて

対象者の個人情報として年代・職種・経験年数を取得します。また、蘇生不要指示に関する知識・経験・事前指示書の有無と活用方法・蘇生不要指示が尊重されない要因・蘇生不要指示を尊重するための支援

方法を取得します。特定の個人を識別することができる傷病者の基礎疾患・病歴、氏名、生年月日、住所、電話番号はデータ収集時から取得されません。これらの匿名化の措置は研究代表者が担当し、データ収集時から行われ、対応表は作成しません。データを二次利用する場合には、必要に応じて別途倫理審査委員会による承認を受け、熊本大学大学院生命科学研究部長の許可を得た上で使用します。

5. 試料・情報の保管および廃棄の方法

情報の保管については、熊本大学病院緩和ケアセンター職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできない熊本大学病院臨床研究棟7階緩和ケアセンター医員室の鍵がかかった部屋において厳重に保管します。情報についてパスワードを設定することで、漏洩、盗難、本研究とは関係ない者のアクセスを防ぎます。保管期間については、研究データの保存等に関するガイドラインに照らし合わせ、研究終了後10年間の保存を行い、研究終了10年経過した時点で研究対象者の情報データを削除します。

6. 研究対象者やその子孫の健康に関する研究結果のフィードバック

回答者ご本人やその子孫への健康に関する本研究結果のフィードバックはありません。

7. 利益相反について

本研究において利益相反に関係する企業等はありません。本研究の利害関係の公正性については、熊本大学大学院生命科学研究部等医学系研究利益相反委員会の承認を得て、本研究の計画書や研究の方法に関する資料の情報について熊本大学病院緩和センターのホームページにて公開します。

8. 本研究によって生じた健康被害に関する対応・補償について

本研究は質問紙調査のため侵襲を伴う研究に該当せず、健康被害に関する補償は想定していません。

9. 試料・情報が将来の研究で使用される可能性

本研究において取得した研究対象者の情報は他の研究に使用することを考慮していません。将来的に新規の研究計画書を立案し、その際に本研究の患者情報を転用することが生じた場合には、改めて倫理審査委員会に倫理申請を行います。

10. モニタリング・監査について

本研究は観察研究であり、モニタリング・監査は行いません。

11. 調査補助機関

本調査に関わる書類の郵送は「株式会社かもめ印刷」、データ収集は「株式会社クロスマーケティング」に委託して実施しています。

本研究に関する問い合わせ

熊本大学病院緩和ケアセンター

担当者：吉武 淳

電話：096-373-5637（緩和ケアセンター）

E-mail: atsuyoshi@kuh.kumamoto-u.ac.jp